

平成 30 年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

研究題目 小学校低学年体づくり運動の教材開発と実践

研究者氏名（所属）

○住本 純（京都ノートルダム女子大学） 長谷川 聖修（筑波大学）
 三田部 勇（筑波大学） 鈴木 幸光（日本Gボール協会）
 沖田 祐蔵（日本Gボール協会）

報告

1. 目的

小学校学習指導要領（2020年全面実施）の小学校低学年では、体を動かす楽しさや心地よさを感じながら、多様な動きを経験することが一層、強調されている。そのような点から「体を動かす楽しさや心地よさ」を感じ、多様な動きを経験する視点から、体づくり運動領域の小学校低学年におけるボールを用いた教材を開発し、その教材を用いた授業実践を行い、その実態を明らかにしていくことを目的とした。

概要

まず2018年4月～12月にかけて、小学校低学年の体づくり運動領域で「体を動かす楽しさや心地よさ」を感じ、多様な動き（「体のバランスをとる動き」・「体を移動する動き」・「用具を操作する動き」・「力試しの動き」）を経験できる教材を共同研究者（体育科教育学を専門とする大学教員、体操領域を専門とする大学教員と指導者）と実践予定校の協力のもと作成した（表1）。その作成にあたっては、東大阪市立の小学校1年生を対象に、予備検証授業を3回行った。それを踏まえ、単元計画、授業計画を決定し、2019年1月31日～2月15日に検証授業を行った（東大阪市立K小学校2年生23名対象、6時間単元）。調査データは、毎時間後の自由記述の感想カード、単元前後における低学年用の運動有能感測定尺度（岡澤ら、2001）アンケート、授業映像、単元前後のボール投げ上げテスト、片足バランステストである。

	1時間目	2時間目	3時間目	4,5時間目	6時間目
0分	整列・あいさつ・本時のねらいの確認・用具や場の用意				
10分	○オリエンテーション ・学習の進め方 ・学習の約束 ・用具について ・グループで活動する場合はグループ分け	○多様な動きをつくる運動の学習内容を 知る。 ・友達の様子を見て、よい動きの見つけ 方や友達への伝え方を知る。 ・先生や友達と一緒にバランス をとる運動と体を移動する運動 をやってみよう。	○多様な動きをつくる運動(遊び)① 先生や友達と一緒に用具を操作 する運動と力試しの運動をやっ てみよう。 用具を操作する運動(遊び) ・ボールパス ・ゴキブリホイ ・ボールキャッチ	○グループでのステーション学習 グループで協力しながら、これまで の動きの中から、もっとやりたい動き を選んでやってみよう。	○学習のまとめ グループで発見した、色々な動きを 発表しよう
20分	○体づくしの運動(遊び)① 前年種に取り組んだ体づくしの運 動(遊び)を行う。 ○例 ・しゃんけん ・指物あそび ・おしくらまんじゅう ・いちはにほへち ・ぼんぼり ・じゃんけん列車 ＊友達とハイタッチや拍手で 運動の楽しさを共有できるように する。 ＊運動中や運動後の心と体の 変化をイメージできるように、 表情や感情を表すカードを用 意する。	○多様な動きをつくる運動(遊び)① 体のバランスをとる運動(遊び) ・座ってバランス崩し ・寝のバランス崩し ・あかみバランス崩し ・バランスボード ＊1人1ペアグループ 手をつないでバランスをとるなど、人 数や姿勢を変えたり、難易度を高 めたりすることができる。	力試しの運動(遊び) ・引っぱり相撲(色々な姿勢で) ＊ボール操作が苦手な児童には、 ボールの空気の入れ具合を調整し、 操作しやすくすることができる。 ＊力比べが苦手な児童には、力を入 れたり、握めたりする行い方の前置 や力を加減するタイミングをつかめる ように声をかけをし、配慮する。	体のバランスをとる運動(遊び)・体を移動する 運動(遊び)・用具を操作する運動(遊び)・力 試しの運動(遊び)の4つの場を作り、もっ たい得意な動きを自分で選択し、チャレンジ学習 を行う。 ＊人数や用具などの条件をグループで 相談し、変えてみる。また新しい運動の 行い方を教師側が学習カードで用意して おき、それを選ぶこともできる。 ＊グループで活動することにより、友 達と声を出して動きやリズムを合わせる 行い方を知ること、選ぶことも可能となる。	体のバランスをとる運動(遊び)・体を移動する 運動(遊び)・用具を操作する運動(遊び)・力 試しの運動(遊び)を発見し、グループで発見した 動きを発表しよう。 ＊人数や用具などの条件をグループで 相談し、変えてみる。また新しい運動の 行い方を教師側が学習カードで用意して おき、それを選ぶこともできる。 ＊他のグループを観察することで新しい 動きを発見することもできる。
40分		○多様な動きをつくる運動(遊び)② 体を移動する運動(遊び) ・脱けろ危険 ・色分けごっこ ＊物の設定、コートや広さなどを 変えることで、動きに変化(緩やか になる)		＊グループで活動していくことも可能 である。友達の様子を見て、気持ち を待たせたり、チャレンジすること を大切にしよう。 ＊友達と一緒に取り組むこと、 チャレンジすること・達成すること の楽しさを感じられるように 配慮する。 ＊選んだ動きを行ってみて、楽しい と感じた運動遊びの動きを動作を 変えながら友達に伝えることが できるように学習カード を使用するなどの工夫をする。	＊友達の動きを見て、気持ち を待たせたり、チャレンジする こと・達成することの楽しさ を感じられるように配慮する。 ＊選んだ動きを行ってみて、 楽しいと感じた運動遊びの 動きを動作を変えながら友 達に伝えることができるよう に学習カードを使用する などの工夫をする。
学習カード記入・まとめ・挨拶・片付け					

表 1. 単元計画

2. 結果（または成果）

「体を動かす楽しさや心地よさ」を感じ、多様な動きを経験させるために考案した低学年の体づくり運動教材を実践した結果、児童の自由記述分析では、「体を動かす楽しさ」や「動いた後の心地よさ」といったカテゴリーが抽出された。この結果から、考案した教材は、多様な動きを経験しながら、体を動かす楽しさや心地よさを感じられる内容であったと考えられる。

今後は、調査を行った単元前後の運動有能感測定尺度とボール投げ上げテスト、片足バランステストの分析を行い、運動有能感と実技テストの変化について検証を進めていきたいと考えている。その結果については、令和元年の本学会で発表することとしている。